2Ja－5

女子学生からみた高年女性の服装に対する意識と好ましさ

○小田巻淑子*、小林茂雄**
（*田中千代学園短大、**共立女大）

＜目的＞高年女性の服装に対する意識は、高年者と若年者では異なると思われる。昨年の第48回大会では、高年者自身を被験者として、服装やおしゃれについてどのように考えているかを調査し報告した。今回は、若年者の女子学生を被験者として、高年女性の服装に対する意識について調査し、前年の調査結果と対比しながら、女子学生と高年女性の違いについて考察した。

＜方法＞首都圏在住の２０歳前後の女子学生を対象に、１９９６年１１月～１２月にアンケート調査を実施した。調査内容は、①外出着の好ましさ（２４服種、４段階評定尺度、昨年と同じ写真）、②高年女性の服装に対する意識（１０項目、３段階評定尺度）、③高年女性になったときの服装の意識（１５項目、３段階評定尺度）、④高年女性が着たい・着たらよい衣服の色彩、などである。調査データは単純集計、因子分析などにより解析し、女子学生と高年女性について比較検討した。

＜結果＞外出着の好ましさについては平均評定値から、高年女性よりも女子学生のほうが総じて評定値が高い傾向にあった。しかしながら、高年女性で最も評価の高い深紅のテーラードスーツは女子学生では評価が低く、茶系などの色彩や柄物の衣服は女子学生の評価が高いなど、高年女性と女子学生の評価は異なっていた。また、女子学生が着たらよいと思う色に茶系をあげているのに対して高年女性は茶系を着たくない色にあげるなどの点にも意識の相違がみられた。服装に対する意識についても着用する衣服にはこだわると回答した高年女性に対し、女子学生はもっとおしゃれに関心を持ったほうがよいとしていた。